



地域と生きる

おんが病院・おかがき病院だより

コロナ禍の早い終息を願って

コロナの脅威はまだまだ続いており、第3波襲来が懸念されています。何時になったら平穏な日常生活を取り戻せるのか、先が全く見えません。関係者は、連日、懸命にコロナに立ち向かっており、国民は予防接種やワクチンの開発を一日千秋の想いで待ち焦がれています。

令和2年11月4日の時点で、世界の感染者は4,740万人、死亡者は121万人に達しています。とくに、アメリカ、インド、ブラジルでは感染者が500万人を超えているようですが、日本では感染者10万人、死者1,700人と諸外国と比較すると少ないようです。

おんが病院では、地域住民をコロナから守るという使命感を持って、コロナの診断・治療に積極的に取り組んでいます。これまでにPCR検査や抗原検査を1,777件施行し、陽性者は22件(1.2%)と幸いに予想より少なかったようです。これは、遠賀中間地区は人口密度が少なく、いわゆる“密”が避けられているからではないでしょうか。

おんが病院は、コロナ患者さんを受け入れる施設として、ハイケアユニット(HCU)の8床を急遽コロナ専用病棟に改造して対応してきました。しかし、年間で1,000人を超える救急搬送の患者さんの治療や手術後の患者さんのケアなど本来の急性期病院としての業務も大切です。いつまでもハイケアユニットが一般の患者さんに使えないとなると、病院の医療の質が著しく低下しますので、11月から、また、元のようにハイケアユニットを一般の重症患者さんを収容できる病棟に戻しました。一方、急患でコロナの検査結果がまだ判明していない患者さんを収容するためのベッドとして、3階病棟の2床を「コロナ疑いの緊急専用ベッド」として対応しています。

また、ドライブスルー方式のPCR検査センターを病院の敷地内に新設しました。かかりつけ医が診察して、コロナの感染が疑われる患者さんは、一般の患者さんと隔離してドライブスルー方式で検査を行っています。

ところで、日本で馴染みのあるインフルエンザやポリオ、狂犬病などの予防注射は、不活性化したウィルスを使って免疫反応を誘発させるワクチンであり、また、百日咳や帯状疱疹ワクチンなどはウィルスを精製したタンパク質ベースのワクチンで、すでに長年の実績があり、安心して使用されています。しかし、アメリカやイギリスで、急遽、開発されているワクチンは、コロナウィルスの遺伝子を使って、コロナウィルスに対する免疫反応を誘導したり、mRNAを使ったいわゆる遺伝子治療であり、どのような副作用があるのか非常に気になります。

ヒトは地球上で最もIQが高く、多くの優れた文化を残していますが、今、眼には見えない微生物の脅威に曝されています。常に自分自身の変異を繰り返し、あらゆる環境に上手く適合して生き残っているウィルスが、地球上に生き残る最後の生物になるような気がしてなりません。

遠賀中間医師会病院 統括院長
杉町圭蔵



ドライブスルーPCR検査センター

新型コロナウイルス PCR 検査

新型コロナウイルスの感染の確認でよくPCR検査と耳にしますが、どのようなものでしょう。

検査は唾液もしくは鼻・咽頭ぬぐい液を採取し特性の溶液に浸し検査に出します。採取はインフルエンザと同様に鼻から奥に小さな綿棒をいれて採取し、特殊溶液に入ったチューブに入れます。PCRの機械で時間が3-4時間かかります。

当院でも、2020年2月29日より帰国者・接触者外来を開設し、行政とタイアップしPCR検査を開始しております。当初は行政検査のみで福岡県のPCR検査センターにて検査を行っており検査結果の判明まで1日もしくは2日かかることもありましたが。現在は、民間の検査センターを活用し、半日から1日以内で結果判明が可能となりました。

当院での検査の流れは、新型コロナウイルス感染が疑われる方は他の方と接触しないように当院では外から直接診察室に入る場所が設置されています。

診察室では診察室内の空気を空調で換気を行い、ウイルスを除去するフィルターを備え外へ排出しています。また、部屋の中には対になったパネル装置で風上、風下と空気の流れを作り医師や看護師の感染防御を行っています。こちらのパネルもウイルスを除去するフィルターを備えています。医師や看護師は、基本ゴーグル、マスク、2重の手袋およびガウンを着て対処します。

2020年11月2日より、遠賀中間地区にはPCRセンターが設置されていませんでしたが、おんが病院の敷地内にPCRセンターを設置しドライブスルー形式で検査を行うことが出来るようになりました。

当院では2020年2月29日から10月31日付で1263例のPCR検査を行っており、発熱や呼吸器症状および感染が疑われる救急患者さんなどで早急な判断が必要な場合は抗原検査をおこなっています。

ワクチン、特効薬の早急の生産が待ち望まれています。まだまだ時間がかかりますので、感染しない、させないと一人一人が今後も手洗い、マスクなど感染対策をお願いします。

遠賀中間医師会おんが病院 院長
矢田 親一郎



※詳しい検査キットについては下記をご参照ください。

https://www.medicco.co.jp/poc_web/products/reagent/hmpv_46562011.html

公益財団法人 J K A の「新型コロナウイルス感染症の拡大防止策に対する支援」のついて

公益財団法人JKAの「新型コロナウイルス感染症の拡大防止策に対する支援」による補助金で、入口にて自動で検温を行うサーモカメラシステムを導入しました。発熱者を感知して、別区画にて対応させていただく事により院内感染発生の予防に努めております。



ご希望の方に新型コロナウイルス PCR検査を実費にて実施します

現在、保健所または医師の判断にて新型コロナウイルス感染症(COVID-19)を疑った症例では、行政検査としてPCR検査の保険適用が認められますが、それ以外のケースでは行政検査が認められず、PCR検査もできない医療機関が大半です。おんが病院・おかがき病院でも、本人や家族、企業などよりPCR検査をご希望されることが多くあったため、下記のとおり、自費でPCR検査を行うこととなり、結果証明書もご希望にてお渡しします。

予 約 制：事前のご予約をお願いします。

遠賀中間医師会おんが病院 [TEL:093-281-2810](tel:093-281-2810)

遠賀中間医師会おかがき病院 [TEL:093-282-0181](tel:093-282-0181)

予 約：平日 14:00より予約を承ります(翌日以降分)

診察時間：平日 15:00~16:00 (1時間)

金 額：27,500円(税込) PCR検査(鼻咽頭ぬぐい)

検査場所：発熱外来

診 療 費：当日清算(現金のみ)

当日持参：保険証または身分証明書

検査方法：RT-PCR法(TaqMan プローブを用いたリアルタイム PCR 法)

使用機器：BD MAX™(日本ベクトン・ディッキンソン株式会社)

使用試薬：ExK™ TNA-3 セットおよび BD MAX™PCR Cartridges

検出限界：150copies/スワブ

結果報告：結果証明書は、郵送・来院受取のご希望にてお渡しします

検査日の翌診療日の11時以降

電話でのご回答はできません



【PCR検査について】

当院では感度を高めるため、鼻咽頭を綿棒で拭い採取するPCR検査を行っていますが、PCR検査の陽性率(新型コロナウイルスに感染している人を調べたときに陽性が出る確率)は60~70%程度とされています。

今回の検査のため採取検体した場所(鼻咽頭)にウイルスがない場合や、ウイルスを見つけることができるPCR検査の検出限界のウイルス量よりも少ない量のウイルスしか検体に含まれていない場合には、どんなに精度の高いPCR検査を行ったとしても陰性となります。よって、今回の結果で陰性であっても絶対ではありません。

【結果が陽性の場合】

本検査で陽性が出た場合は保健所へ報告を行います。その後、保健所の指示に従う事になります。また、この場合は行政検査へ変更し保険適用となりますので、一部負担金以外は返金いたします。結果証明書の発行はいたしません。

特定健診開始のお知らせ

【おかがき病院に専門医を置き、10月より特定健康診査・特定保健指導を始めました】



2008年に始まり10年以上経過した特定健康診査・特定保健指導は、メタボリックシンドロームの予防・解消に重点をおいた内容であり、いわゆる“メタボ健診”です。肥満の増加に歯止めがかかっていない世界情勢のなかで、40歳以上の日本人の肥満は増加していないのですから、一次予防としてのメタボ健診が一定の成果をあげつつあると判断して良いと思います。

対象者は40歳から74歳ですから、わが国では対象者は5,000万人にのぼります。本事業で大切な特定保健指導の対象者は500万人です。

対象者への実施率は、被用者医療保険の被保険者への実施率は8割を優に超えています。被扶養者の実施率は4割程度にとどまっており、市町村国保の実施率に至

っては3割台となっています。

すべての対象者の実施率向上のためには、地域にお住いの皆様のアクセスの改善が喫緊の課題でした。

- ・オプションとして、肺がん検診、胃がん検診、大腸がん検診が可能です。
- ・肺がん検診は、リスクの高い人に対して高性能のCT診断装置を導入しました。
- ・胃がん検診は、消化器内視鏡専門医が検査を行います。
- ・大腸がん検診は便潜血反応検査ですが、陽性ならば大腸内視鏡検査をお勧めします。

わが国は、人口10万人あたりアメリカの5倍の大腸がん死亡者数になっています。この状況を地域一丸となって克服してまいります。

今後は超音波装置のリニューアルが予定されていますから、2,000万人を超える非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)の把握や頸動脈エコーによる動脈硬化症の把握も一層確実になります。さらに、後期高齢者の皆様には、心身の機能低下(フレイル)を把握する必要がありますので、骨粗鬆症検診も取り入れたいと計画しています。



お問い合わせ:おかがき病院 健診部 [TEL:093-282-0181](tel:093-282-0181)(代表)

遠賀中間医師会おかがき病院 副院長
松股 孝



おんが病院 消防訓練を実施しました

今回は、消防設備についての説明・水消火器を使用した消火訓練を行いました。



発行日:令和2年12月吉日
発行:遠賀中間医師会おんが病院・おかがき病院
編集:おんが病院・おかがき病院広報委員会